

令和7年度 福岡市総合教育会議

議事録

- 日 時
令和7年10月27日（月） 11時20分～12時00分
 - 開催場所
福岡市立清水高等学園 体育館
 - 出席者（7名）
市長 高島 宗一郎
教育委員会 下川 祥二（教育長）
原 志津子
武部 愛子
徳成 晃隆
沖田 由香
谷口 倫一郎
 - 議事次第
 - 1 開会
 - 2 市長挨拶
 - 3 教育長挨拶
 - 4 議事
 - （1）協議事項
 - ① 学校給食の質向上について
 - ② 学校の働き方改革について
 - （2）その他
 - 5 閉会
- ※ 開会前に「授業（作業学習）」を視察（約20分）

概要

○「学校給食の質向上」、「教員の働き方改革」の進捗状況と今後の方向性について、教育委員会事務局から説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

＜学校給食の質向上について＞

- ・給食は、栄養をとるということはもちろん大事だが、食育という視点も非常に大事。見た目、食べ物の組み合わせ、食べる時の友達との会話なども含めて、質の高い給食、給食時間を作っていくことが必要。
- ・給食時間をもう少しゆっくりとすべきではないかなど、様々な議論がある。給食はこうでなきゃいけないといった、これまでの既成概念を一旦外して考えてもらいたい。
- ・食育の観点から、食事によって提供する飲み物を変えてもらいたい。
- ・広報について、ホームページに載せているから、みんなが見ているものという前提ではなく、例えばショート動画やプラットフォームも含めて検討し、こちらからプッシュで届ける工夫を是非してもらいたい。

＜教員の働き方改革について＞

- ・学校現場に、より福祉的な要素を求めるニーズもある中で、勤務時間のほとんどが授業時間に充てられている現状であれば、準備が時間内に終わらないのは当然だろうし、何等かの対応が必要。
- ・ICTを活用して準備時間を短くすることや、持ち授業時数を縮減して空きを作っていくなどの工夫が必要。
- ・日本全体で人口が減っていて、どこも人手不足という中において、ウェルビーイングの視点から学校の教員が非常に厳しいということになれば、人材確保が難しくなってくる。教員のウェルビーイングをしっかりと考えていくことは、極めて重要。
- ・子どものことで相談をしたい場合、親が相談しやすい時間帯は仕事が終わった後かもしれないが、教員にも勤務時間があるため、認識を揃えていく、理解をしていただく工夫が必要。
- ・ストレス軽減のための取組みについて、教員という立場は、とにかく何を言ってもいいように思われることも多いため、毅然とした対応をとるべきところはしっかりしながら、教員のこともしっかり守ってもらいたい。

議事録

発言者	発言内容
立石企画調整部長	<p>定刻となりましたので、これより、令和7年度福岡市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます、総務企画局企画調整部長の立石でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、高島市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>こんにちは。市長の高島でございます。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、日頃から福岡市の教育行政の推進にご尽力をいただいていることに、感謝申し上げたいと存じます。</p> <p>会議に先立って、授業の見学をさせていただきました。作業学習というカリキュラムで、実際に清掃や軽作業などの作業をすることを勉強しているわけですが、一生懸命に技術を身につけている姿を見て、本当に皆さんの就職に繋がって欲しいなと胸が熱くなりました。途中、大きな声で「こんにちは」と挨拶をしてくれる姿も素晴らしかったと思います。また、今おいしいコーヒーを出していただきましたが、このコーヒーも作業学習の一環として子どもたちが淹れてくれたということです。</p> <p>行政として、全部まとめて発注ではなく、できるだけ切り出して発注するなど、彼らの仕事を作っていくということも大事だと感じました。親亡き後、本当に1人で生きていけるような仕事を作り出すというのも社会としてすごく大事だと改めて思った次第ですので、また皆さんとこういったことも議論できたらいいなと思いました。</p> <p>さて、今日は、学校給食の質向上、学校の働き方改革、この2つのテーマについて、現状を聞かせていただきたいと考えてございます。</p> <p>ご承知の通り、福岡市は2学期から学校給食無償化をスタートいたしました。先日の高市総理大臣の話でも、しっかりこれをやるというふうに明言されていまして、これは全国的な動きにもなると思っております。</p> <p>給食というのは、栄養をとるということ、これはもちろん大事だとはいえ、やはり食育ということも非常に大事です。おいしい見た目、そして食べるときの友達との会話もそうでしょうし、食べ物の組み合わせだとか、こういうようなことも含めて、質の高い給食、そして給食の時間を作っていくということが非常に大事だと思います。私も市長部局として予算面で応援しますので、是非一緒になって、良い給食と給食時間を作っていきましょう。</p> <p>一方で、教員の負担軽減や、なり手不足の解消についても、これは福岡市だけではなくて全国的な大きな課題です。働き方改革を進めることで、教育の質そのものを高めていくということが大事です。忘れてはいけないのは、学校は教員のための場ではなく、子どもたちが生きる力を身に付ける</p>

	<p>ための場だということです。そのために必要な手段として、教員がどういう形で関与していくかということが大事ですので、あくまでも子どもたち中心で考える必要があります。近年、教育分野においても ICT の活用が進んでいます。例えば教員の授業準備において、市販されている教材を使うことによって負担軽減できるようなものは積極的に取り入れていき、それがひいては子どもたちの良い教育に繋がるのかということを、是非一緒に考えていければというふうに思っております。</p> <p>短い時間ではありますが、教育委員会の皆様と連携を深める有意義な時間にしたいと思っております。</p> <p>今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
立石企画調整部長	<p>続きまして、下川教育長からご挨拶をお願いいたします。</p>
下川教育長	<p>教育長の下川でございます。</p> <p>教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>高島市長におかれましては、大変お忙しい中、総合教育会議を開催していただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日のテーマの一つであります、学校給食の質向上につきましては、福岡市の給食が、もっとおいしく、そして、もっと充実したものになるよう、これまでに児童生徒や有識者の方々等のご意見も踏まえて、検討を重ねてまいりました。</p> <p>また、教員が子どもたちと向き合う環境づくりを進めていくためにも、学校の働き方改革は重要なテーマであると考えております。現在、教育委員会では、教員の働き方改革の推進に向けて、次期プログラムの策定を進めているところでございます。</p> <p>本日は、これらのテーマにつきまして、検討状況などを共有させていただければと考えておりまして、市長からのご意見を踏まえながら、今後とも取組みを進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
立石企画調整部長	<p>それでは議事に移ります。</p> <p>本日は、お配りしています次第に記載の2つの事項について、意見交換をお願いしたいと考えております。</p> <p>協議事項ごとに、資料について、教育委員会事務局からご説明させていただいた後、意見交換を行う形でそれぞれ進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>会議終了は12時を予定しております。</p> <p>それでは、まず、学校給食の質向上について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
浦塚教育支援部長	<p>教育支援部長の浦塚でございます。</p> <p>学校給食の質向上について、資料に沿って説明させていただきます。資料1をお願いいたします。</p>

	<p>学校給食の質向上につきましては、児童生徒にさらに喜ばれる学校給食の実現のために、もっとおいしいプロジェクトとして取り組んでいます。</p> <p>まず資料上段の、現在までの取組みについて説明いたします。</p> <p>7月に、市内の小中学校、特別支援学校において、給食を提供している児童生徒及びその保護者を対象に、アンケート調査を実施しました。その結果につきまして、資料左上をご覧ください。</p> <p>学校給食の満足度については、児童生徒、保護者ともに「満足している」、「まあまあ満足している」と回答した方が概ね8割に達しており、一定の評価を得られていると考えております。</p> <p>「今後どのような給食が嬉しいですか」との質問に対しては、小中学校共に「デザートやフルーツの回数を増やす」や「献立の種類を増やす」といった回答が上位となりました。加えて、小学校では、「品数を増やす」が4番目に上がっており、現在中学校では、おかず3品を基本としているのに対し、小学校では2品であることが影響していると考えられます。</p> <p>続いて資料右上ですが、7月、8月に、大学准教授、料理人、料理研究家、生産者、調理事業者による意見交換会を実施いたしました。その中で、彩りや見た目、魚料理の工夫や、スチームコンベクションオーブンや真空冷却機、今画面に出しておりますが、こういった機器の導入や、牛乳以外の日があってもいいのではないかと、そういった幅広い視点からご意見やアイデアをいただきました。</p> <p>また、9月議会において、給食食材の物価高騰に対応するための予算の補正をいただいたことから、引き続き給食の質を維持できる見通しでございます。</p> <p>資料下段をご覧ください。</p> <p>実際に給食を食べている子どもたちや食に関わる民間の方々からのご意見、そして給食に携わっている栄養教諭との協議を踏まえ、今後、献立の工夫、地産地消の推進、広報・PRに取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>1つ目の献立の工夫では、小学校における給食は基本的にご飯またはパンの主食、おかず2品、牛乳で構成されています。今後は副菜を1品増やし、おかず3品の日を増やすことで、より満足度の高い献立を提供したいと考えております。</p> <p>しかしながら、現状の小学校の調理設備では、おかずを1品増やすことは難しい状況であることから、実施には先ほどご紹介いたしましたスチームコンベクションオーブンが必要であり、導入できれば、調理の効率が向上するだけではなく、焼き物や蒸し物など調理方法の幅が広がり、より多彩なメニューの提供が可能となります。</p> <p>また、今後は夏場にサラダや和え物などの冷たい副菜を積極的に提供したいと考えておりますが、これには調理後すぐに食材を冷却できる真空冷却機の導入が必要となります。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>これらの機器導入を通じて、おかずの品数を増やすことや、季節に応じた副菜の提供により、献立を充実できればと考えております。</p> <p>さらに、日本の食文化への理解を深めるため、和食や郷土料理の献立の日を新たに設定し、飲み物を牛乳からお茶などに変更するなど、献立の組み合わせについて見直しを検討しているところです。</p> <p>次に、2つ目の地産地消の推進でございます。</p> <p>給食においては、地産地消を大切に考えており、給食に使う食材は福岡市内産を優先し、県内産、九州産の順で使用するようにしています。市内産の農水産物を使った加工品についても JA や漁協のご協力をいただきながら給食に取り入れてきました。例えば、能古島産の甘夏を使った甘夏ゼリーやマーマレード、あまおうを使った福岡のあまおうクレープ、市内産の春菊、キャベツを使用した福岡野菜のメンチカツ、姪浜産の味付けのりなどがございます。これらは子どもたちにも好評で、地元の味を楽しんでもらえる良い機会となっておりますので、今後さらに拡充していきたいと考えております。</p> <p>あわせて、生産者との交流なども進めてまいりたいと考えております。</p> <p>最後に3つ目の広報・PRでございます。</p> <p>意見交換会において、給食づくりに関わる多くの大人たちが、子どもたちのために心を込めて厳しい衛生管理のもとで日々頑張っていることを、もっと子どもたちに、さらに保護者にも理解していただくことも大切なのではという意見をいただきました。そこで、献立作成や食材選び、調理の様子など、給食ができるまでの過程をホームページなどで積極的に発信し、現場の工夫や思いを知ってもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>今後も、子どもたちの笑顔のために、給食に携わる多くの皆さんとともに、学校給食の質の向上に取り組んでまいります。</p> <p>説明は以上です。</p>
立石企画調整部長	<p>それでは、ここから意見交換に入ります。</p> <p>進行は高島市長にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
高島市長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>ホームページ等を活用して情報発信するとありましたが、今、子どもたちはあまりホームページを見ないので、ホームページに載せているからみんなが見ているものという前提ではなく、例えばショート動画やプラットフォームも含めて検討し、こちらからプッシュで届ける工夫を是非していただきたいと思います。</p> <p>そして、もっとおいしい給食プロジェクトで民間の方との意見交換があったと思いますが、献立の工夫や今後の取組みについて、もう少し詳しく教えてください。</p>

武部委員	<p>献立の工夫については、小学校の給食室は回転窯のみを使用して調理を行っていることから、対応できる調理方法が限られ、献立の種類が増えないということがあります。スチームコンベクションオーブンがあると、子どもたちの大好きな焼き物など多彩な献立を増やすことが可能となります。また、真空冷却機があると、夏場にサラダを提供することが可能となります。これから、もっとおいしい給食を提供するために、この2つの調理機器を全小学校に導入することが、とても有効だという意見がありました。栄養教諭の先生たちも、さらに工夫のしがいが出てくるのかなと思います。</p> <p>給食は、準備から片付けまで子どもたちがやってくれていて、小学校は自校調理なので、作ってくださる方たちの顔も見えて、感謝を、ありがとうございますと直接述べることができたり、大切な教育の現場にもなっています。</p> <p>給食の時間が楽しく、笑顔いっぱい時間になってもらいたいというのが一番の願いです。今回のアンケートで8割ぐらいのお子さんがおいしいと思ってきているというのがわかりましたので、とても安心しているところですが、お子さんからの素直な要望もいただいています。これは、学校給食に対してまだまだ希望がいっぱいあるんだと、期待がいっぱいあるんだということで、この要望も大切にしていきたいと思っています。</p>
高島市長	スチームコンベクションオーブンというのは、1校に1台あるといいんですか。
武部委員	基本的にはそうです。
高島市長	1台幾らぐらいするんですか。
浦塚教育支援部長	1台約700万円です。
高島市長	真空冷却機の方は。
浦塚教育支援部長	約650万円です。
高島市長	1校あたり合わせて1,350万円かかる。それを全校に配置したら、幾らくらいかかるだろう。
浦塚教育支援部長	全部で20億円近くかかります。
高島市長	どちらの調理機器を先に入れるとか、優先順位はあるんですか。
浦塚教育支援部長	同時並行で進められればと考えています。
高島市長	これまで、こういった調理機器を入れた方がいいって議論はあったんですか。
浦塚教育支援部長	今回の「もっとおいしい給食プロジェクト」の意見交換において、実際にどういう給食が望ましいかというやり取りの中で議論したものです。
高島市長	応援するんだから、そういう話はどんどんあげてもらいたいなと。せっかくの機会なので、給食はこうでなきゃいけないとか、これまでの既成概念を一旦外して考えていただきたい。これまでは、1食あたりの費用を上げるにも、給食費の負担に関して保護者の理解を得る必要があり簡単ではなかったですが、無償化したことで行政の中で考えればいい話になったわ

	<p>けですし、給食の時間も、十分あるんだったらいいけど、時間をもう少しゆっくりとったほうがいいとかを含めて、いろんな議論があると思うんです。</p> <p>引き続き、機材とか予算についてももしっかり議論していただいて、より精緻な形であげていただければと思います。</p> <p>それから、地産地消の話。例えば、我々がスーパーでお肉を買うときも、外国産だったら結構大きいお肉が買えるけど、国産だったら小さいのしか買えない。だから、全てを地産地消にして、地元のもので質は良いものだけ量が少ないだったら、それはあんまりだと思うんです。全部をこだわり続けると、値段が高く量が少なくなってしまうようなこともありますので、そのあたりの地産地消についての考え方、今後の取組みについてどうお考えですか。</p>
沖田委員	<p>保護者へのアンケートでも、「福岡県産や九州産の食材を使っていることに対して感謝している」や「今後も期待している」という回答がありました。</p> <p>学校給食は、栄養バランスのとれた食事を提供するだけではなく、教育の一環として位置づけられているものであり、食に対する理解や関心を深めるために地産地消を推進することは大切だと思います。現在でも市内産農水産物を多く使えるよう献立を工夫していますが、今後は野菜などの一次産品だけでなく、市内産の農水産物を使用した加工品についても、JA や漁協と協力して、より一層取り入れていく必要があると考えています。</p> <p>また、意見交換のメンバーの方からは、「福岡のおいしい食材について子どもたちに給食を通じて知ってほしい」、「生産者との交流の機会が増えるといい」という意見がありました。生産者と直接交流することで、給食で食べている食材を誰がどうやって作ったかという背景への関心につながり、生産者への感謝の心や食べ物を大切にする心が育まれるものと考えますので、関係機関と連携の上、引き続き取り組んでいくことが大切だと考えます。</p> <p>また、給食がどのようにできているか、食材一つ一つに多くの方が携わっていることや、給食現場の様子などを広報することで、児童生徒や保護者、市民の皆様の給食に対する理解につながりますので、積極的に取り組んでいけたらと思います。</p>
高島市長	<p>地産地消、それとつながる郷土料理があると思うんですが、「がめ煮プロジェクト」って、福岡市の卒業生は皆、がめ煮を作れるようにしようということを福祉局がしましたよね。今どうなってるんですかね。</p>
立石企画調整部長	<p>現状は把握しておりません。実施していたとは思いますが。</p>
高島市長	<p>福岡の食材を使って郷土料理を自分で作ってみる、そういった体験機会を設けたりという取組みが、確か「福岡 100」の中であったと思うんです。</p> <p>給食の中でも郷土料理の日とか、和食の日を設定して、組み合わせを見直すところなんですけど、どういう見直しを考えていらっしゃるのでしょうか。</p>

徳成委員	<p>学校給食は本当に進化をしまして、和食洋食をはじめ国際色豊かなおいしい献立・メニューがありますが、福岡をはじめ各地の郷土料理も、工夫して提供されているところです。</p> <p>今回の児童生徒のアンケートの中に、ご飯に牛乳は合わないという意見が率直に書かれていました。以前から、子どもたちの声としてはありまして、米飯の日とか和食献立の日には牛乳の飲み残しが増えるということも見られています。子どもたちによると、この理由については、やっぱり牛乳と献立が合わないということがはっきりと書かれています。民間の方による意見交換会の中でも、「献立によっては牛乳以外の日があってもいいんじゃないでしょうか」というようなご意見もございました。日本の食文化の理解を深めていくという食育の観点から見ましても、今後、和食や郷土料理の献立の日を設定しながら、牛乳をお茶に変えるなど、献立の組み合わせを見直していくということを現在考えております。</p> <p>そうは言いながらも、成長期の子どもたちにとって、カルシウムの摂取は非常に重要とされておりまして、現状は1日の必要量の半分を学校給食で摂取することとなっております。そのため、効率的に摂取することができる牛乳を毎日提供してきたわけですので、今後、献立の組み合わせを見直すにあたりまして、カルシウムなど必要な栄養素について他の食材で補うことができないかどうか、そういった検討が必要と考えています。</p>
沖田委員	<p>子どもが、「今日の献立は牛乳と合わなかった」と言ったことがありました。献立の内容によっては、他の飲み物という選択肢があってもいいのではないかと考えます。</p> <p>また、牛乳を飲めない子どもも多くいると聞いています。牛乳の大切さは重々理解していますが、牛乳以外でカルシウム摂取をすることについても研究していくべきだと考えます。</p>
高島市長	<p>委員から極めて重要な発言があったと思います。まさに先ほどお話した既成概念を壊していこうということ。牛乳は、配るのにも効率がよく、カルシウムを摂取するのに非常に大事だったということは十分理解します。</p> <p>一方で、食育の観点から、甘くてコクがある牛乳と、和食の旨味がぶつかってしまったら、食として合わない。子どもたちだから飲ませればいいではなくて、餌ではないんだから、栄養の摂取と美味しくいただくということを両立するために、是非、カルシウムを効率的に摂取させるために牛乳が都合がいいという考え方だけではなくて、別の食材でカルシウムを摂取できるような方法を是非模索していただきたい。やはり和食の日は、お茶など和食に合うものを、そしてパンなどのときには牛乳で合わせるというふうに、食事によって提供する飲み物を変えていただきたいと思います。今の、委員の極めて重要な意見について、教育長はどうお考えですか。</p>
下川教育長	<p>食育の観点からも、日本の食文化をしっかりと理解していただくということは非常に大事でございますので、牛乳以外の組み合わせについて、しっ</p>

	<p>かりと検討していきたいと思っています。</p> <p>また、先ほどありましたように、牛乳が飲めない子もいらっしゃいますので、そういう子がカルシウムをどう取っていくのかということも、しっかりと研究して、今後の給食の献立に反映させていきたいと考えております。</p>
高島市長	<p>お腹を壊す子もいるわけです。例えば、小袋に入った、ごまがかかっている甘くしている小魚とかって、すごく美味しかった覚えがあるんですが、そういう他の提供の仕方とか、あと、もちろん毎日栄養をとるのが大事なんですが、完璧に毎日というより、この2日間とか1週間の中で、全体としてバランスよく取れるようにというような発想もあると思います。</p> <p>月に2回ぐらいお茶の日を作るというような、それこそお茶を濁さないような形で、しっかり、和食の日は牛乳以外ということで、教育長よろしくお願いします。</p> <p>では次のテーマにいきましょう。</p>
立石企画調整部長	<p>それでは次に、学校の働き方改革について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
峯川職員部長	<p>職員部長の峯川でございます。</p> <p>それでは、学校の働き方改革について、資料に沿ってご説明させていただきます。資料2をお願いいたします。</p> <p>左上、現状と課題でございます。</p> <p>平成30年以降、学校における働き方改革プログラムを策定し、支援スタッフの配置拡充など、計66項目の取組みを実施してまいりました。取組みの結果は、グラフにありますように、教職員の時間外在校等時間が、月平均時間数、月100時間以上の職員数ともに減少するなど、一定改善しておりますが、一方、依然として長時間勤務の教員が多い実態がございます。</p> <p>中段に教員の1日の例を示しておりますが、児童生徒が学校にいる時間は、授業や学級活動などに多くの時間を費やしており、また、児童が下校した後も、保護者対応などを集中的に行っております。そのため、現状としては、勤務時間外に授業準備や保護者対応、中学においては、加えて部活動を行っている状況であり、教員が、子どもを主体とした学びを推進するための、自らの授業を磨く時間を確保することが難しい状況となっております。</p> <p>左下が、学校現場の意見でございますが、新たな学校における働き方改革プログラムの策定にあたりまして、より実効性のあるものとするために、教職員アンケートや教員との意見交換会を実施いたしました。意見交換会などで、特に、授業関連、保護者対応、そして、中学校における部活動について、学校現場から大変意見が多くございました。</p> <p>まず授業関連ですが、「持ち授業時数が多く、勤務時間中に授業準備の時間を確保できない」といった意見や、「経験の浅い若手教員が増加しており授業力向上の取組みが必要」といった意見が多く寄せられました。</p>

	<p>次に、保護者対応ですが、「放課後等の電話対応に忙殺される」という意見や、「過剰なクレーム、事案対応に疲弊」する、また、「学校外のトラブルなど対応を求められることが多岐にわたるため苦慮している」という声がございました。</p> <p>部活動に関しては、「大会運営を含め、土日における活動の負担が大きい」といった意見や、「顧問を希望する教員が減少している」といった声が多くありました。参考に顧問従事率を記載しておりますが、令和7年度は令和4年度と比較して約20ポイント低下するなど、減少傾向にございます。</p> <p>また、全体として、「仕事にやりがいはあるがワークライフバランスが取りづらい」という意見も多く、いじめや不登校の増加、特別な支援を要する子どもたちの増加などによる対応、家庭や地域の状況の変化などにより、学校が対応する課題が複雑化・困難化している状況も影響し、教職員の余裕が失われているものと認識してございます。</p> <p>右上、これからの取組みでございます。</p> <p>このような状況を踏まえ、今後の取組みの基本的な考え方を、「教員の勤務関係を改善し、授業準備時間の確保を実現することで、教員の働きやすさと働きがいと両立」していくとしております。</p> <p>具体的には、学校現場から声が多く寄せられました、授業関連、保護者対応、部活動について、教育委員会として取組みの方向性を示すことで、現場の教職員をしっかりと支えていくことが必要と考えております。</p> <p>まず、授業関連については、持ち授業時数の縮減と若手教員の育成に向け、専科指導の拡充や若手育成の体制づくりに向けた取組みが必要であると考えています。</p> <p>また、同時に校務等の効率化のため、ロケーションフリーで校務を実施するクラウド型校務支援システムの導入など、ICTの活用にも取り組む必要があると考えております。</p> <p>次に、保護者対応につきましては、学校と保護者・地域の役割分担の見直しのため、保護者・地域の理解促進に向けた取組みを進めると共に、事案対応の迅速化・適正化のため、通話録音の導入など報告業務の負担軽減に向けた取組みを進めていく必要があると考えております。</p> <p>部活動につきましては、土日も含めた、部活動に関わる業務負担軽減のため、部活動指導員の拡充など、教員以外のスタッフのさらなる活用に取り組む必要があると考えております。</p> <p>これらの取組みにより、授業準備時間を十分確保できる環境を整備するとともに、教員業務の一層の適正化、効率化に取り組むことによりまして、先ほどもございましたように、自律的な学びの研究など、授業改善に取り組む時間を生み出し、授業の質の向上につなげていきたいと考えてございます。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

立石企画調整部長	<p>それでは意見交換に入ります。</p> <p>進行を高島市長にお返ししたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
高島市長	<p>今、学校現場には、より福祉的な要素が求められるようになっているし、是非そういった対応をして欲しいというニーズもある中で、勤務時間のほとんどが授業時間に充てられているという現状であれば、準備が時間内に終わらない。当然そうだろうし、それはやはり何とかしなきゃいけないですね。</p> <p>もちろん、ICT、パッケージのソフトなどをできるだけ活用して、準備時間を短くすることもそうですし、授業の受持ち時間を、フルフルではなく空きを作っていくなど、工夫が必要だということが今回のアンケート結果で明らかになったと思いますが、何か打開策はありますか。</p>
谷口委員	<p>この4月から教育委員を務めさせていただいておりますが、学校現場は大変だと、いろいろ聞いてはいましたが、実際に教育委員になって、本当に大変だということを実感しております。</p> <p>何か打開策があるかということですが、今まで色々な工夫をしていますが、やはりもう一歩何かしなくてはいけないと考えています。</p> <p>特に、いじめや不登校の増加であるとか、それから、今日、特別支援学校の生徒さんの元気な姿を見て本当に嬉しかったんですけども、そういったことへの対応も増えております。それから当然、家庭や地域の状況の変化、市長もおっしゃっておられたように、学校が対応すべき課題が複雑化してきています。その結果として、学校や教員の負担が増大しているということとはもう間違いないことだと思います。</p> <p>その中で、子どもたちのための教員であるという、その視点を忘れずに進めていくことはとても大事だと思います。特に、最近は経験の少ない教員が多くおられるということで、そういったことも影響しているのではないかと思います。</p> <p>教員の負担軽減のためには、今、ICT活用のお話がありましたが、そういったことを一生懸命進めて効率化を図っておりますし、それから、部活動などで、地域との連携にも取り組んでいます。こういった地域との連携をこれからどれだけ上げられるかということも大事であると思っています。</p> <p>教育の質を向上して、子どもたちへのより良い教育を実現するためには、授業の準備時間を十分に確保できる環境というのがとても大事なので、そのためには、今、高島市長おっしゃったように、教員1人当たりの持ち授業時間を減らしていくという工夫が必要だと思います。</p> <p>これまでも、持ち授業時間の縮減や若手育成のため、専科教員や若手育成主任を配置してきましたが、これは国の基準の範囲内での対応ということで、配置できる数が限定的でした。ただ、やはりこういう人員が必要だという声が非常に多いので、今後、市独自の施策としての配置も検討してい</p>

	<p>く必要があると思っています。</p> <p>なお、ICT の活用に関しては、教室以外でも居場所によらず校務が可能になる、クラウド型の校務支援システムを構築しており、8年度から運用が始まりますので、そういったことも役に立つと思っています。</p>
高島市長	<p>学校の教員だけでなく、そもそも日本全体で人口が減っていて、どこも人手不足という中において、学校の教員が、ウェルビーイングという視点で非常に厳しいということになれば、当然ながら人材が取れなくなってくる。そうすると、より良い人材を選ぶということではなくて、とにかく人のかき集めるような状況になったり、もしくは欠員なんていうことにもなってしまう。それを防ぐためにも、教員のウェルビーイングをしっかりと考えていくということは、極めて重要だと思いますが、どういう取組みが効果的だと思いますか。</p>
原委員	<p>教員のウェルビーイング向上ですが、先ほどのアンケートの中でも、長時間勤務の改善というのがもちろんありましたが、精神的な負担の解消ということが非常に重要になってくると思います。</p> <p>学校現場の意見ということで出ていましたが、保護者からの過剰なクレームだとか長時間の電話対応については、ストレスになっているという声も寄せられています。</p> <p>もちろん、教員個人の対応力を向上すること、学校現場の体制充実を図ることは大事だと思いますが、保護者の方々にも、学校の現状をしっかりとご理解いただき、運営に協力いただけるよう、教育委員会として周知啓発に取り組んでいく必要があると考えています。</p>
高島市長	<p>子どものことで相談をしたい場合、親が相談しやすい時間帯は仕事が終わった後かもしれませんが、教員は教員で勤務時間があるわけですから、そこはやはり認識を揃えていく、理解をしていただく工夫が必要になると思います。</p> <p>また、ストレス軽減のための取組みについて、録音の話がありましたが、逆に言うとまだしてなかったのかなと思ったぐらいですが、教員という立場、公務員という立場は、とにかく何を言ってもいいように思われることも多いのですが、毅然とした対応をとるべきところはしっかりしながら、教員のこともしっかり守っていくということは、是非、実施していただきたいと思います。</p> <p>他に何かございましたら。</p> <p>では、進行をお返しします。</p>
立石企画調整部長	<p>皆さん活発な意見交換をありがとうございました。</p> <p>それでは閉会にあたりまして、高島市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>短時間でありましたが、有意義な意見交換ができたと思います。</p> <p>昨今、海外の人が多く日本に入ってくる中で、日本人のマナーや協調性</p>

	<p>が非常にすばらしいという感想が聞こえてきます。なぜ日本人がそうなのかというと、やはり公教育の影響がすごく大きいとっていて、規律やルール、マナー、思いやりの心、道徳などを育む学校教育はすごく大事だと感じています。</p> <p>また、学校給食については、アンケートにもありましたとおり、おいしいという満足の声を非常に聞きますので、これも携わっていただいた方々のご尽力のおかげと思います。</p> <p>こういう良いものをしっかり引き継ぎながら、そして同時に、社会が変わっていく中で、変えるべきもの、注意しなければいけない点も変わってくるので、そういった変化に柔軟に対応しながら、是非、子どもたちが生きる力を身につけるための教育を、そのための工夫を、教育委員会の方には、引き続きお願いしたいと思います。</p>
立石企画調整部長	これをもちまして、令和7年度福岡市総合教育会議を終了いたします。